

「子孫に漁場を」誓い ●●● 漁協部会長

明日への一歩

—59—



県内のウニ漁獲量の約3割を占める洋野町。中でも、一番の水揚げを誇る宿戸地区は、津波で大量のウニが陸に打ち上げられる被害に遭った。しかし「作り育てる漁業」を目指し、海底を掘って造った増殖溝は約半数が無事だった。

震災後の出荷を来週に控え、種市南漁協宿戸漁業実行部会長の吹信夫さん(64)は「ようやく消費者に届けられる。出荷が待ち遠しい」と笑顔を広げる。

東日本大震災当日、吹切さ

ウニ出荷再開けん引



「子や孫の代まで漁場を残したい」との思いを胸に、浜の復興を模索する吹切信夫さん—洋野町種市・宿戸漁港付近

「これまで地域の人たちが育てて築いてきたものを採らせてもらってきた。これからは自分たちが一生懸命育てて若い世代に返していきたい」と思いを熱く語る。

海水を取水するポンプや殺菌装置も流されたため、むき身にして出荷できないなど課題は多い。

だが、「5年、10年かけるのでは遅い。数年で立ち直る方向性を見いだし、若い世代にやる気を持ってもらうことが自分の役割だ」と語気を強める。

普段から「子や孫の代まで漁場を残したい」と話す吹切さん。ウニ漁の再開を浜の復興へつなげる覚悟だ。

(文、写真・佐藤光)

働く姿勢 組合員の手本



宿戸漁業実行部会を担っている。漁協に入った時から吹切さんやアワビを人の3倍採り、すごい人だと思っていた。「子や孫の代まで漁場を残したい」と口癖のように言っていて、自ら熱心に働き組合員の手本になっている。

長年にわたって作り育ててきた漁場が震災で被害を受けたが、ぜひ復活させたいと思っている。大変な時期だが、一生懸命やってみよう。

宿戸地区は天然に近い状態でウニを育てられる増殖溝を種市の中でもいち早く造った。固い岩盤があるからできるもので、全国にも例がない。

早く種市のウニを食べたいという手紙ももらい、とても勇気づけられた。一日も早くウニの出荷を再開し、漁業者組合が一丸となって震災を乗り越えていきたい。

育て引き継ぐ

毎年5月の連休には宿戸漁港でウニの直売会を続けてきた。内陸や八戸方面から買い物客の長い行列ができる恒例行事。今年は連休だけでなく、月に数回開催する計画も立ててきたが、震災の影響で中止せざるを得なかった。それだけに「何とか復活させたい」と再開準備にも熱が入った。

吹切さんは宿戸地区のアワビ採りで年間漁獲量がトップとなる「東横綱」を数年前から23年連続で守り続けている。素直な人として知られる。

いわて 東日本大震災



震災後初めて藤原埠頭に入港した外航船—宮古市

待ってました 宮古に外航船

香港の5000ト級 震災後初めて入港

宮古市の藤原埠頭に8日、震災後初めてとなる外航船が入港した。福島第一原発事故の風評被害などで海外からの船は途絶えていた。

入港したのは香港の貨物船「REIKA HARMONY」(5321ト)。肥料の原料となるリン鉱石を積み積み岸。津波被害を受けた宮古港運送の従業員が積み荷を降ろした。

同貨物船は5月31日に中国南部の防城港を出た。通常は太平洋側を航行するが、原発事故を考慮し、遠回りの日本海側から宮古にたどり着いた。

宮古港運送国際物流事業部の小野寺秋子部長は「岸壁は大きな損傷はなかったが、船が入ってこないという状況にならない。待ちに待った外航船の入港」と歓迎した。

大船渡の市民ら日本へ熱い声援 キリン杯観戦会

キリンカップサッカー「日本対チエコ」のパブリックビューイング(大船渡市体育協会、市サッカー協会主催)は7日、同市盛岡のシバル大船渡で開かれ、観戦した市民約50人がザックシヤパンに熱い声援を送った。

会場には縦2・6メートル、横4・2メートルの大型スクリーンが設置され、市況を見守った。

後半、日本がチャンスを迎えると会場は熱



「おしーい」。日本代表のプレーに盛り上がる子どもたち—大船渡市

三鉄は「きっと芽が出る」

せんべい復刻版発売 月末から全国に拡大

三陸鉄道(望月正彦社長)は8日、震災で中止予定だった「三鉄復刻版商品」の発売を発表した。三陸鉄道の復刻版商品は、震災で中止された「三鉄復刻版商品」の発売を発表した。三陸鉄道の復刻版商品は、震災で中止された「三鉄復刻版商品」の発売を発表した。



「きっと芽が出るせんべい」復刻版などのセット商品を手にする望月正彦社長—宮古市

若者の雇用支援して



たので安心して生活が不安だ。浸水区域の土地の扱いがどうなるのか早く知りた

近所の知り合いが集まって雇用支援にも力を入れてほしい。



大船渡大船の親戚宅で避難生活 建設業 小国 五郎さん(23)

車を高台に持って行って、津波にのまれた。屋根につかまって助かった。家族も無事です。もうこれからは、仕事を再開できた。早く仮設住宅で生活したい。

清波てんでんこ

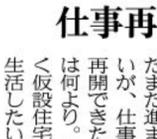
題字・山下文男さん

全希望者 早く仮設に



知っている人も多く問題なく生活できたが、ようやく仮設住宅に入れたという気持ち。友人の中にはまだ入っていない人もいます。早く自宅が流され、避難希望者全員が入れることを願っています。

仕事再開がうれしい



大船渡大船の親戚宅で避難生活 建設業 小国 五郎さん(23)

車を高台に持って行って、津波にのまれた。屋根につかまって助かった。家族も無事です。もうこれからは、仕事を再開できた。早く仮設住宅で生活したい。

～被災地へのメッセージ～

県民手を取り合おう

盛岡市三ツ割 団体職員 煙山 友理さん(25)

海好きで沿岸にはよく遊んでいます。

練習試合で大船渡市に行った。被災地の現状を直接見たわけではないので実感は湧かないが、募金など積極的に自分のできる支援をしたい。手を取り合おう。県民みんなで復興を目指そう。



北上市堤ヶ丘 小岩 洗喜君 (黒沢尻北高2年) 県民みんなで復興を目指そう。